# ピーマン夏秋どり栽培の実証（葛尾村）

福島県農業総合センター　浜地域農業再生研究センター

事　業　名　福島県営農再開支援事業
小 事 業 名　営農再開に向けた作付・飼養実証
研究課題名　中山間地域に適したピーマン作型の実証（葛尾村）
担　当　者　根本知明

## Ⅰ　新技術の解説

### 1　要旨

葛尾村は、県内有数のピーマン産地に隣接しているが、これまでピーマン出荷のための栽培実績はない。そこで、ピーマンの基本作型となる夏秋どり栽培に取り組んだところ、5 月下旬に定植すると、7 月中旬から 10 月下旬まで収穫でき、近隣のピーマン産地と同等の収量が得られた。

（1）葛尾村におけるピーマンの夏秋どり栽培は、5 月 26 日に定植すると、7 月 14 日から 11 月 4 日まで収穫された（図 1）。
（2）収量は、10a 当たり 6.1t となり、近隣のピーマン産地の平均収量 6.2t と同等だった。10a 当たりの月別収量は、7 月に 584kg、8 月に 2,371kg、9 月に 2,388kg、10 月に 704kg、11 月に 98kg となり、出荷ピークは 8～9 月だった（図 2）。
（3）本実証では、11 月上旬に収量及び品質が低下したため、収穫切り上げの目安は 10 月下旬と考えられた（図 3）。

### 2　期待される効果

（1）葛尾村における野菜の生産振興に活用できる。

### 3　活用上の留意点

（1）本実証は、標高 550m の畑地で、震災前はたばこ栽培、除染は表土剥ぎ+客土を行ったほ場で実施した。
（2）品種は「みおぎ」を用い、苗は JA 福島さくらピーマン部会から購入した。
（3）基肥はピーマン専用 773（窒素:リン酸:カリ（%）=7:17:13）を 10a 当たり 220kg を畝内施用（高畝マルチ栽培）し、追肥は燐硝安加里 S646（窒素:リン酸:カリ（%)=16:4:16）を 10a 当たりに 1 回 10kg を、10 日に 1 回、畝の肩に施用した。
（4）栽植様式は、畝間 180cm、畝幅 120cm、株間 55cm とした。

## II　具体的データ等

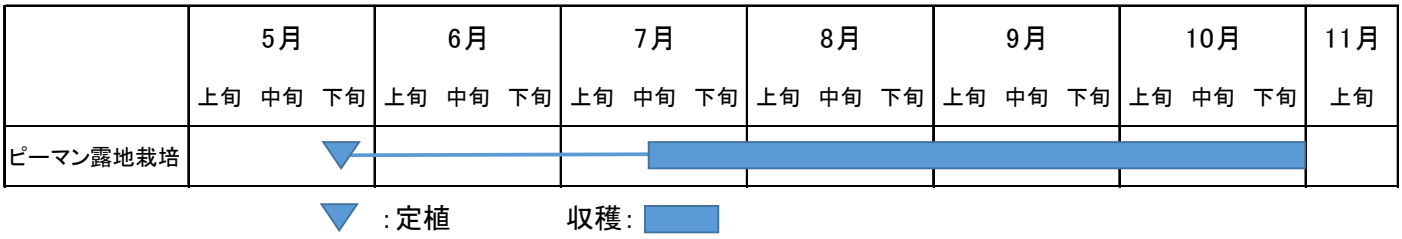


図１　葛尾村におけるピーマン栽培暦（露地）
注）定植:5 月 26 日、収穫:7 月 14 日～11 月 4 日、追肥:7 月～8 月（10 日に 1 回）

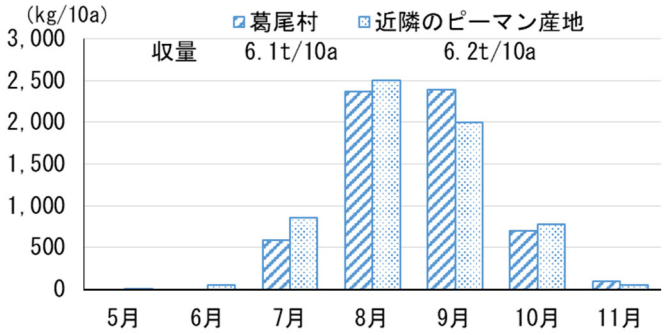


図２ 葛尾村と近隣のピーマン産地の月別収量
注）葛尾村は露地栽培のもの、近隣のピーマン産地は露地、トンネル、ハウス栽培を合わせたもの

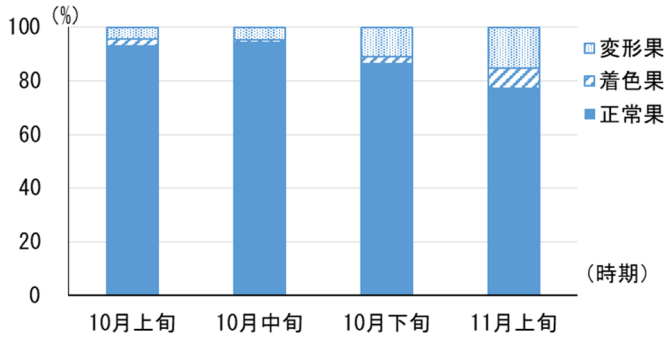


図３　葛尾村におけるピーマンの品質
注１）着色果は、果実表面のアントシアン着色
注２）変形果は、長果、短形果、曲がり果など

表１　ピーマンの経営収支（10a 参考値）

| 項目 | 指標値 | 費用 | 金額(円) |
|---|---|---|---|
| 生産量(kg) | 6,100 | 種苗・肥料・農薬費 | 132,418 |
| 単価(円／kg) | 260 | 動力光熱・諸材料費等 | 75,269 |
| 粗収益(円) | 1,586,000 | 施設・機械費(減価償却)等 | 99,208 |
| 所得(円) | 621,525 | 流通経費 | 657,580 |
| 所得率(%) | 39% | 費用合計 | 964,475 |

注)福島県経営指標(ピーマン(トンネル)H27)を参考に、生産量、流通経費については実証ほの実績を当てはめて集計したもの。

## III　その他

### 1　執筆者

根本知明

### 2　実施期間

令和２年度

### 3　主な参考文献・資料

たむらのピーマン栽培指針（福島さくら農業協同組合）